

2 婚姻・出産の状況

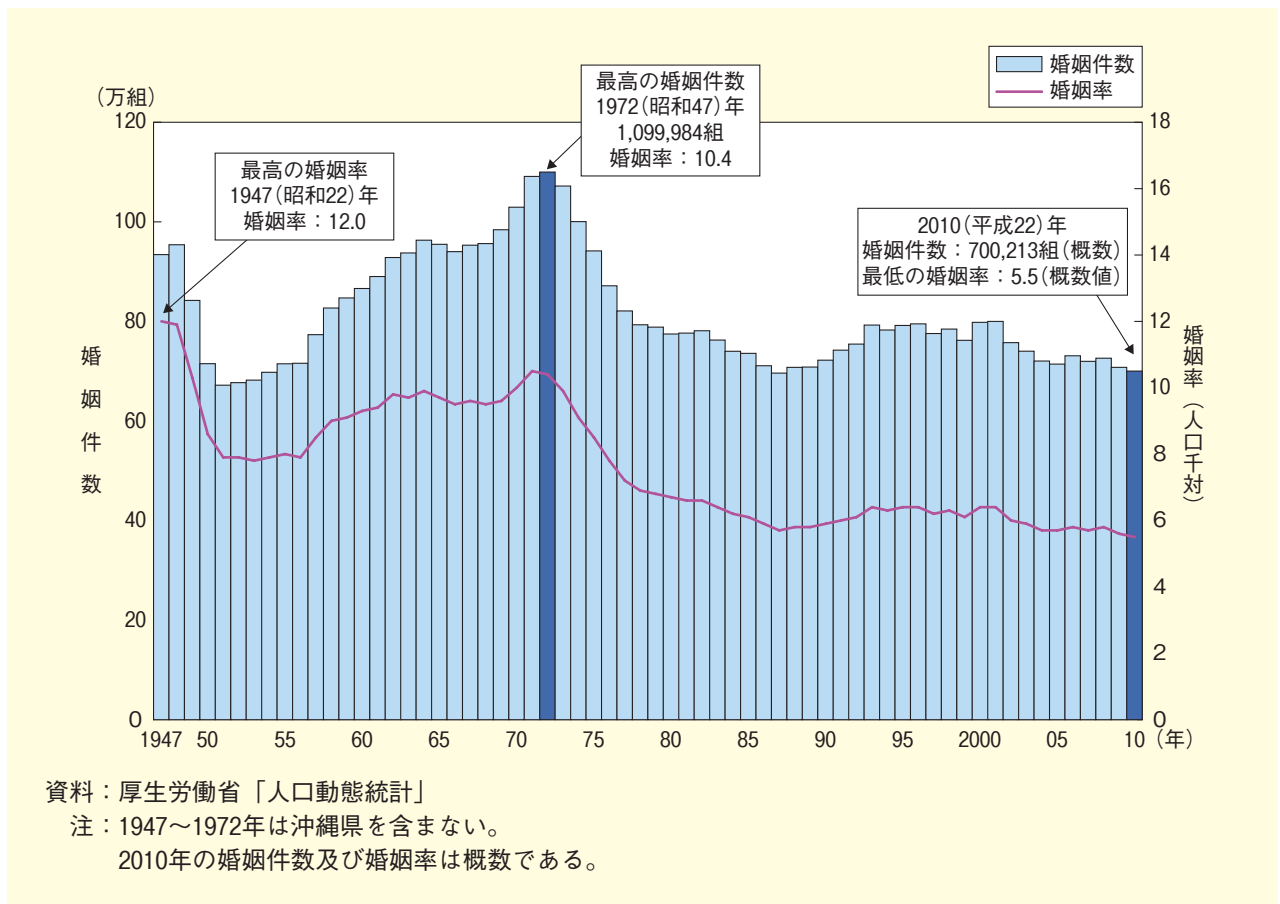
未婚化・非婚化の進行

婚姻件数は、第1次ベビーブーム世代が25歳前後の年齢を迎えた1970（昭和45）年から1974（昭和49）年にかけて年間100万組を超え、婚姻率（人口千対）もおおむね10.0以上であった。その後は、婚姻件数、婚姻率ともに低下傾向となり、1978（昭和53）年以降は年間70万組台（1987（昭和62）年のみ60万組台）で増減を繰り返しながら推移してきた。2010（平成22）年は概数値で70万213組（対前年比7,521

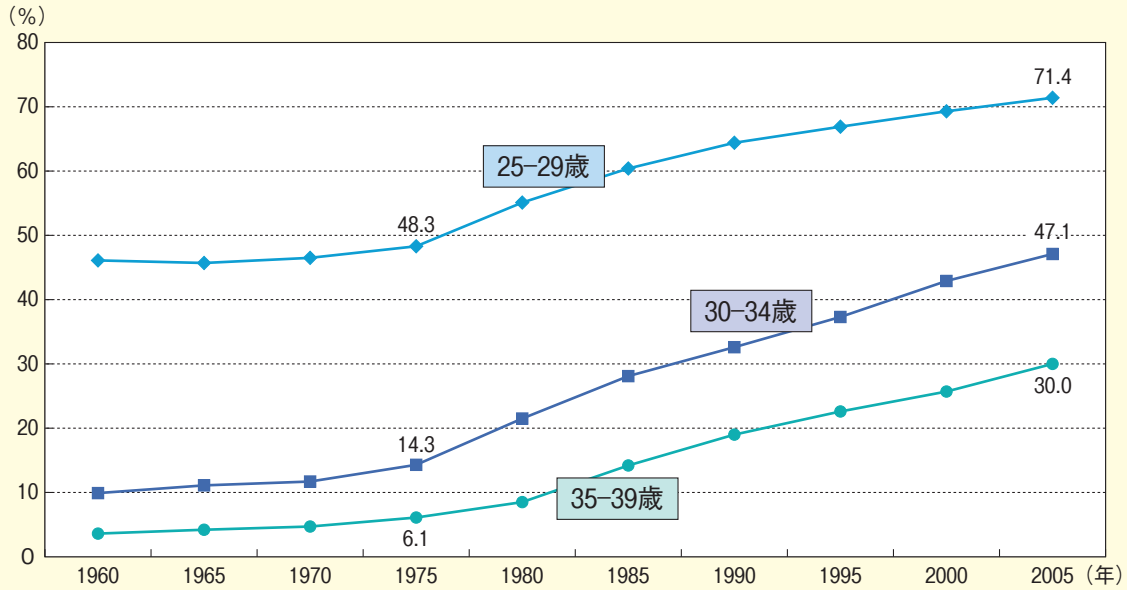
組減）と前年より減少した。婚姻率も5.5（概数値）で前年の5.6から0.1下回り、過去最低を記録した。1970年代前半と比べると半分近くの水準となっている。

また、2005（平成17）年の総務省「国勢調査」によると、25～39歳の未婚率は男女ともに引き続き上昇している。男性では、25～29歳で71.4%、30～34歳で47.1%、35～39歳で30.0%、女性では、25～29歳で59.0%、30～34歳で32.0%、35～39歳で18.4%となっている。さらに、生涯未婚率を30年前と比較すると、男性は2.12%（1975（昭和50）年）から15.96%（2005年）、女性は4.32%（1975（昭和50）年）から7.25%（2005年）へ上昇している。

第1-2-5図 婚姻件数及び婚姻率の年次推移

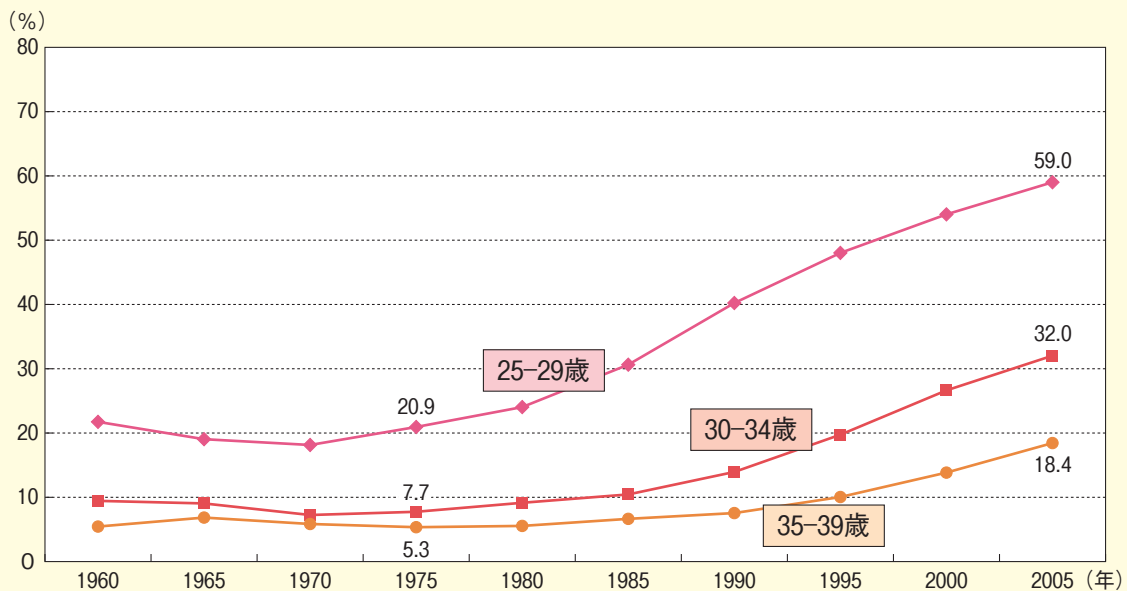


第1-2-6図 年齢別未婚率の推移（男性）



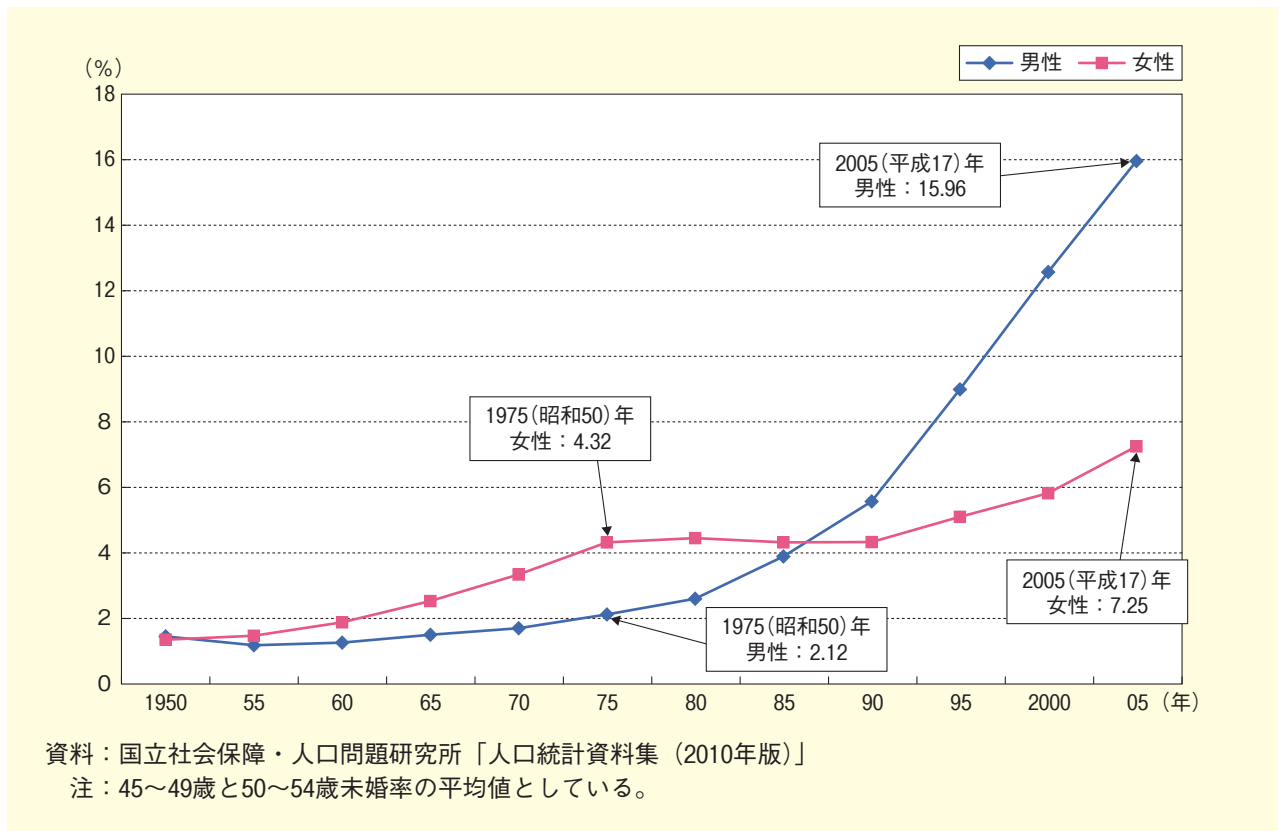
資料：総務省統計局「国勢調査報告」
注：1960～1970年は沖縄県を含まない。

第1-2-7図 年齢別未婚率の推移（女性）



資料：総務省統計局「国勢調査報告」
注：1960～1970年は沖縄県を含まない。

第1-2-8図 生涯未婚率の年次推移



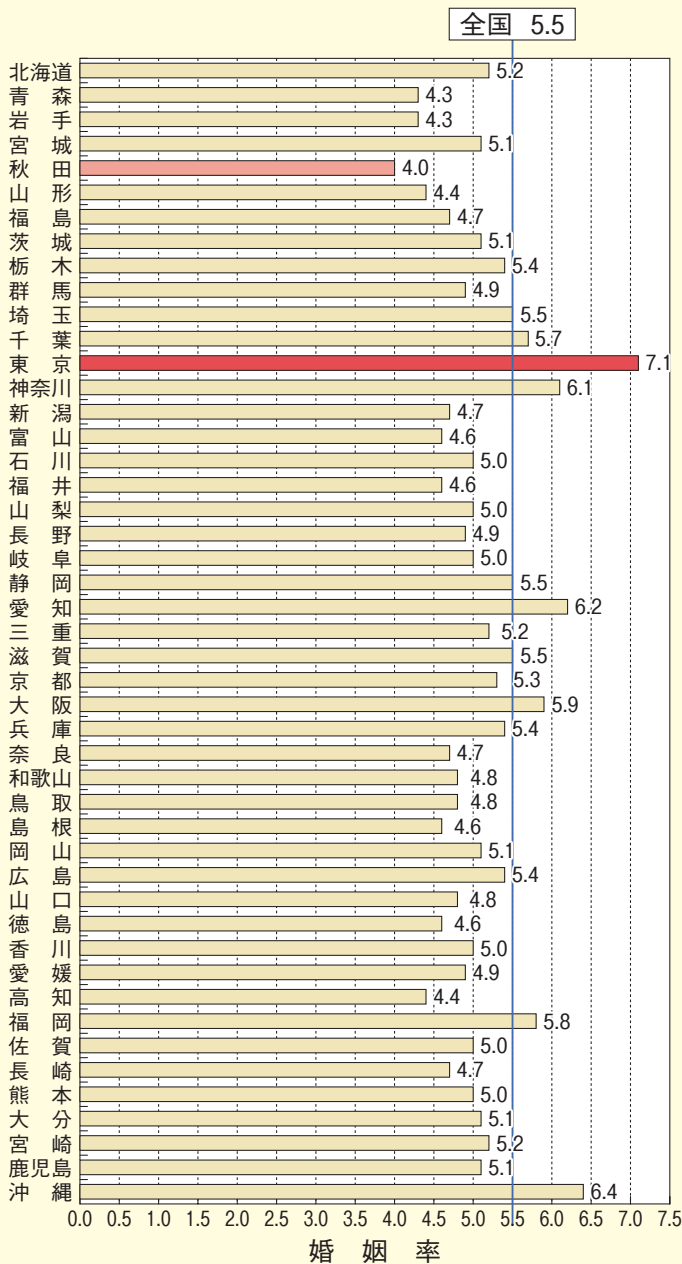
都道府県別にみた婚姻率

2010年の全国の婚姻率は概数値で5.5であるが、47都道府県別の状況を見ると、これを上回るのは7都府県、下回るのは37道府県であった。この中で婚姻率が最も高いのは東京都(7.1)であり、以下、沖縄県(6.4)、愛知県(6.2)、神奈川県(6.1)、大阪府(5.9)の

順となっている。最も低いのは、秋田県(4.0)であり、以下、青森県及び岩手県(4.3)、山形県及び高知県(4.4)の順となっている。

2009年の確定数と2010年の概数値を比較すると、全国の婚姻率は前年から0.1ポイント下回っており、47都道府県別で見ても、29都府県が減少している。

第1-2-9図 都道府県別婚姻率 (2010年)



資料：厚生労働省「人口動態統計」

注：2010年の都道府県別婚姻率は概数値である。

都道府県	2010年 (概数値)	2009年 (確定数)	増減幅
北海道	5.2	5.2	0.0
青森県	4.3	4.4	▲0.1
岩手県	4.3	4.4	▲0.1
宮城県	5.1	5.3	▲0.2
秋田県	4.0	4.0	0.0
山形県	4.4	4.5	▲0.1
福島県	4.7	4.8	▲0.1
茨城県	5.1	5.2	▲0.1
栃木県	5.4	5.4	0.0
群馬県	4.9	5.1	▲0.2
埼玉県	5.5	5.6	▲0.1
千葉県	5.7	5.9	▲0.2
東京都	7.1	7.2	▲0.1
神奈川県	6.1	6.2	▲0.1
新潟県	4.7	4.6	0.1
富山県	4.6	4.6	0.0
石川県	5.0	5.1	▲0.1
福井県	4.6	5.0	▲0.4
山梨県	5.0	5.0	0.0
長野県	4.9	5.1	▲0.2
岐阜県	5.0	5.1	▲0.1
静岡県	5.5	5.6	▲0.1
愛知県	6.2	6.3	▲0.1
三重県	5.2	5.3	▲0.1
滋賀県	5.5	5.6	▲0.1
京都府	5.3	5.3	0.0
大阪府	5.9	6.0	▲0.1
兵庫県	5.4	5.4	0.0
奈良県	4.7	4.7	0.0
和歌山県	4.8	4.7	0.1
鳥取県	4.8	4.7	0.1
島根県	4.6	4.5	0.1
岡山県	5.1	5.2	▲0.1
広島県	5.4	5.6	▲0.2
山口県	4.8	4.9	▲0.1
徳島県	4.6	4.7	▲0.1
香川県	5.0	5.2	▲0.2
愛媛県	4.9	4.9	0.0
高知県	4.4	4.3	0.1
福岡県	5.8	5.9	▲0.1
佐賀県	5.0	4.9	0.1
長崎県	4.7	4.8	▲0.1
熊本県	5.0	5.0	0.0
大分県	5.1	5.2	▲0.1
宮崎県	5.2	5.2	0.0
鹿児島県	5.1	5.0	0.1
沖縄県	6.4	6.5	▲0.1
全国	5.5	5.6	▲0.1

晩婚化、晩産化の進行

日本人の平均初婚年齢は、2010年（概数値）で、夫が30.5歳（対前年比0.1歳上昇）、妻が28.8歳（同0.2歳上昇）と上昇傾向を続けており、結婚年齢が高くなる晩婚化が進行している。1975年には、夫が27.0歳、妻が24.7歳であったので、35年間に、夫は3.5歳、妻は4.1歳、平均初婚年齢が上昇していることになる。

また、初婚の年齢（各歳）別婚姻件数の構成割合を1989（平成元）年から10年ごとにみると、夫は1989年と1999（平成11）年と比較

すると大きな差異はないものの、1999年以降、また、妻は1989年以降一貫して、ピーク時の年齢が上昇するとともに、その年齢が占める割合は低下し、高い年齢の割合が増加していることがわかる。

さらに、出生したときの母親の平均年齢をみると、2010年（概数値）の場合、第1子が29.9歳、第2子が31.8歳、第3子が33.2歳であり、35年前の1975年と比較すると、それぞれ4.2歳、3.8歳、2.9歳遅くなっている。

第1-2-10図 ▶ 初婚年齢（各歳）別婚姻件数の割合

